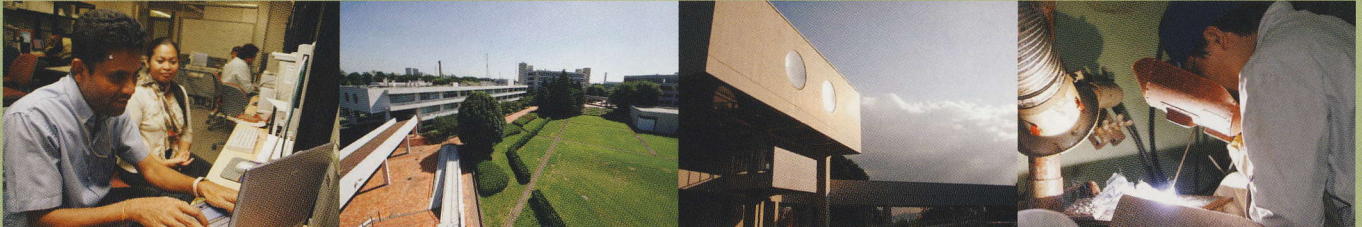


滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌
〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1
職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局
Fax.: 042-763-9267
E-mail: sousuikai@uitek.ac.jp
URL: <http://www.uitek.ehdo.go.jp/>



January 1, 2007. Volume XIX

不足する「ものづくり」の担い手

厚生労働省では毎年11月を「職業能力開発月間」、同月10日を「技能の日」として広く国民一般に広報活動を行っている。各地で多彩な催し物があり、特に小・中学生、親子を対象とした“ものづくり教室”は人気が高く、子供たちが真剣に取り組んでいる様子、完成後の満足げな顔は印象的でさえある。

しかし、いつの頃からか“ものづくり”は忘れられ、今日なお若年者の技能・技術離れが進んでいる。“ものづくり”の担い手として職業能力開発施設、各種専門学校、工業高校、高等専門学校、工科系大学などの修了者が考えられるが、どこも入口の段階で、技能・技術離れ、少子化の影響もあり学生定員の確保すら難しい状況である。

今、企業ではいわゆる「2007年問題」を間近に控え、団塊世代の定年退職に伴う熟練技能・技術の継承が大きな問題となっており、質・量とも製造現場を支える人材の育成・確保が重要な課題である。大企業はそれなりの対応が可能であっても、製造業の中心的な役割を担う中・小企業はどうであろうか。人手不足、後継者不足に直面しているのではないだろうか。

今後わが国の産業、とりわけ製造業を基盤とした競争力を維持するためには、若者の“ものづくり”の担い手を確実に育成していく体制整備が早急に望まれる。もちろん国は在学中の早い段階から職業意識の形成、適切な職業選択の確保などが重要であるとして、ジュニア・

インターンシップの推進、キャリア・スタート・ウィーク事業などを実施している。また、270万人にも上るニート・フリーターについても「若者の自立・挑戦のためのアクションプラン」を取りまとめ、実践型人材養成システム、若者自立塾、就職支援などの各種対策に取り組んでいるが、まだまだ発展途上といっている。



高度職業能力開発促進センター所長
日下 正次
(製造鍛造科第3回卒)

愛知県が2007年問題に伴う労働力不足の対応策として、技能・技術者を志望する若年者の創出と、産業ニーズに合った人材を安定的・継続的に育成する仕組みづくりを目指して「モノづくり人材育成愛知モデル」を作成した。県の人材育成施策と教育機関、中小企業など社会全体が一体となり、取り組むべきことを具体的に示している。

このような行動が各地域に起こり、長期的な視野に立って人材の育成・確保に努めることができれば、深刻な今の事態を乗り切れるのではないかと思うのだが、如何。

平成17年度卒業・修了証書授与式

平成18年3月17日(金)、平成17年度卒業・修了証書授与式がJR橋本駅隣接の「杜のホールはしもと」において挙行されました。厚生労働大臣(代読)、独立行政法人雇用・能力開発機構岡田明久理事長、滄水会小部博志会長をはじめとする多くのご来賓の方々を見守る中、長期課程215名、研究課程28名の卒業生・修了生に職業能力開発総合大学校戸田校長より一人ひとり証書が手渡され、厳かに式が執り行われました。



滄水会賞授与式

「滄水会賞」は滄水会の創立30周年を記念して平成7年に創設された賞で、今回で11回目を迎えます。この賞は、人物および学業が優秀である者または一芸に秀でている者で、将来社会において大いに貢献が期待される卒業生を対象とし、各工学科から1名を選出し表彰するものです。授与式は卒業証書授与式の中で行われ、滄水会会長から直接表彰状と副賞の盾が授与されます。

今年の受賞者は表記の方々です。滄水会賞受賞者だけでなく、すべての卒業生、修了生のご活躍と社会への貢献を心より祈念しております。

◎平成17年度滄水会賞受賞者◎

産業機械工学科	大高 慎一
生産機械工学科	山内 雄介
電気工学科	依田 安基
電子工学科	江連 雅晴
情報工学科	リュウチャワリット・チャロトーン
建築工学科	栗林 宏至
造形工学科	桑原 清香
福祉工学科	高貝 嘉明



小部滄水会会長(中央右)、服部同副会長(中央左)と平成17年度滄水会賞受賞者の方々。

総合大で「若年者ものづくり競技大会」開催される

わが国の輸出全体に占める製品輸出の割合は昨年も90%近くを占め、これはサービス輸出の8倍以上に達しています。依然として日本は“ものづくり立国”であることに異論の余地はありません。しかし職業訓練の中核を担っている製造業は今、中国をはじめとする東アジアとの競合や、海外進出・国内生産拠点の空洞化の懸念など、様々な問題に直面しています。

さらにここへ来て、団塊の世代が退職を迎える2007年以降、その技術・技能を継承する人材が枯渇することが懸念され、政府は1999年に「ものづくり基盤技術振興基本法」を施行して、ものづくり人材の育成に乗り出しました。

このような危機感もあって昨年度、「第1回 若年者ものづくり競技大会（主催：中央職業能力開発協会）」がポリテクセンター千葉で開催されました。そして今年の第2回大会は総合大を主会場にし、総合大東京校（東京都小平市小川西町）と相模原市立北総合体育館（神奈川県相模原市下九沢）を加えた3カ所を利用して、8月8日（火）～10日（木）の3日間で行われました。

同大会には全国41都道府県から224名の若者が参加し、「旋盤」「フライス盤」「機械製図（CAD）」「電子回路組立て」など、ものづくりにかかわる12職種で競技が繰り広げられました（＝写真、競技風景）。大会への出場資格は20歳以下の若者で、職業能力開発施設、認定職業訓練施設、工業高等学校、企業内研修施設等に在学していることが条件です。その結果、これまで交流の少なかった文科省所管の工業高校や普通高校などからも84名の選手が参加し、18歳以下であるにもかかわらず工業高校生6名が優勝するなど大健闘しました。

「旋盤」「メカトロニクス」「情報ネットワーク施工」「ウェブデザイン」の4職種については、10月開催の第44回技能五輪全国大会（香川大会）の選考会を兼ねており、合計15



「電子回路組立て」競技の様子

名の選手が全国大会への出場権を獲得しました。

本校からは梅津二郎長期課程部長（木工6期）を技術委員長とし、10名の教員が競技主査として運営に参加したのを始め、多くの教職員が大会を支えました。学生課では参加選手や見学者に受験案内を配布して本校をPRし、同時開催された学校見学会（第1回目）では、全国から集まった高校生と保護者48名にも大会を見学していただきました。

また、今年度から始まった「自己推薦」入試制度では、本大会入賞者などの“一芸に秀でた”高校生の取り込みを狙っています。

滄水会からは“滄水会・職業能力開発総合大学校同窓会”と名入れした手ぬぐいを製作し、競技参加者と大会関係者に限定して約600本を配布しました。

夏休みを返上して猛練習し、酷暑の中で競技する若者達の姿を見てみると、わが国製造業の将来も決して暗くはないと思えてきます。



五輪選手による「旋盤」競技の模範演技の様子

ものづくり現場の卒業生

平成12年の師走に、二間しかない借家の自宅を登記して車いすの製造会社をスタートさせてから早いもので6年が経とうとしています。毎年わずかずつですが成長し、今期は売上も1億1千万円を越え、スタッフはパートさんを含めると11人になりました。先日、町田街道沿いに自社ビルを購入し、ここから本当のスタート地点と思い、気を引き締めているところです。

私は第23期生で、大学校に福祉工学科が設立された第1期の卒業生です。卒業と同時に「横浜市総合リハビリテーションセンター」という横浜市が運営する施設で、研究開発室のエンジニアとして社会人生活をスタートしました。8年経った頃から独立を考えるようになり、11年目で退職した後、新鋭の車いすメーカーの(株)オーエックスエンジニアリングという会社で3年間勤務し、37歳で起業しました。横浜市直営の社会福祉法人を退職した時は、さすがに周りから「大丈夫か?」と心配されましたが、その後のサラリーマン生活を経て現在に至り、作りたかったものを少しずつ形にできていることに満足しています。

私の苦労話など取るに足らないものですが、起業の際には自己資金も少なかったため、昼間は大学の講師を掛け持ちし、夜は相模原の工場で製造ラインの夜勤をして資金を貯め、本当に有難いことですが、友人、知人の援助のお陰で約1年かけて起業することができました。また、ずっと一緒に頑張ってきた妻の支えで、なんとかここまでやって来れたと思います。

かつて横浜で「行政サービス」をしていた頃、上から下へ物を与えるような「福祉」の仕事居心地悪く感じていました。公的機関のサービスでは、職員の人件費が請求されないから利用者は低額でサービスを受けられます。その場合、利用者は「タダだから」という理由であまり文句は言わず、本当は満足していなくても「有り難う」と言ってくれるものです。今私が民間事業者として同じサービスをすれば、かかった分の費用を請求しますから、お客さんはその対価に見合

う製品、サービスでなければ怒ります。実際、よく怒られたり、また、喜ばれたりしますが、お客様とメーカーとして同じ目線でサービスをできることは、自分の技術の本当の価値を知る上でとても大切なことだと思っています。障害を持つ方や、高齢の方をビジネスの対象とすることに抵抗を感じる人も居ますが、私自身は「お客様」として障害を持つ方に向き合うからこそ、対等の立場で切磋琢磨できるのだと思っています。

この仕事は大きなビジネスではありませんが、「本当に必要とされているものを作る」とことのできる日本の数少ない製造業の内のひとつだと思っていますし、また私達がよい製品を作り、売ることができれば社会のバリアも低くできていると思っています。

例えば、重度の子供達の車いすを作る時、私たちの技術が未熟であれば、必然的にその車いすは「大げさな」ものになります。街で、「大げさな車いす」に乗った子供が向こうからやってくると、周りの人達はその子供が「障害を持っていること」を強く意識してしまい、時には「見てはいけない」と思って目を逸らしてしまうかも知れません。ところが、機能的で綺麗な車いすに乗ってその子供がやってくると、「かわいいなあ」と自然に親和感を持って存在を受け止めることができます。そのように、用具のデザインは社会のバリアを少し下げる力があります。もちろんデザインだけではなく、子供達にとっても介助者にとっても快適なものでなくては意味がありませんが、それとデザインを兼ね備えた製品を生み出す技術力を、弊社では「バリアフリーテクノロジー」と呼んで、大切な理念に据えています。



松野 史幸
(福祉工学科第23回卒)
(株)コーヤシステムデザイン
代表取締役
〒194-0212
東京都町田市小山町14-2-1
TEL: 042-798-4644
FAX: 042-798-4645
HP: 090-7635-1613



「回るもの、動くもの」のすべてに
総合駆動技術の世界No.1メーカーへ

代表取締役副社長
滄水会 会長
小部 博志 (第一電気科第7回卒)

日本電産株式会社

本社 京都市南区久世殿城町338 〒601-8205
TEL 075-922-1111 (代)
FAX 075-935-6451
E-mail: HIROSHI.KOBE@notes.nidec.co.jp
URL: http://www.nidec.co.jp/



創業 明治32年
大栄工業株式会社

代表取締役・一級建築士
尾身 嘉一
(建築科1期)

一級建築士事務所 建築部・不動産部

〒162-0065 東京都新宿区住吉町11-20
TEL 03-3359-0391
FAX 03-3353-5917
E-mail info@daiei-con.jp
http://www.daiei-con.jp

協同組合 匠の会

マーケット自体が小さく、何よりも私自身の経営者としての器が小さいので、弊社の仕事が大きな事業に展開することはないと思いますが、今の10倍くらいの規模（年商10～20億円）を次の目標に据えています。また、日本の市場だけでなく、海外でも子供用の車いすブランドとして認知される会社に育てて行きたいので、積極的に海外にも紹介して行こうと思っています。

最後に、弊社製品のひとつ介助型子供用車いす「パディー」の写真をご覧下さい。この車いすは自力で車いすを漕ぐ事も、座ることさえも難しい重度の子供達が使用できるように色々な工夫を凝らしたものです。私が何も語らなくても、この車いすが私達と、この車いすを使っている子供達の想いを伝えてくれているとよいのですけれども、如何でしょうか？



介助型子供用車いす「パディー」

在校生の活動状況

平成18年の在校生の活動状況を報告します。初めに専門工学分野で各賞を受賞した長期課程、研究課程の学生の紹介です。次に学生自治会関連で、各種大会に参加したクラブ関係の大会名および結果です。

（学生の実績）

長期課程

- 1) 秋葉米里 電気工学科（平成18年3月卒業）
平成17年度電気学会東京支部 電気学術女性活動奨励賞
- 2) 畠山直也 電気工学科（平成18年3月卒業）
平成17年度電気学会東京支部 電気学術奨励賞

研究課程

- 1) 黒木利記 機械専攻2年 日本塑性加工学会優秀論文講演奨励賞
- 2) 山口芳弘 電気・情報専攻2年 YPC（ヤングエンジニア・ポスター・コンペティション）優秀発表賞

ニア・ポスター・コンペティション）優秀発表賞

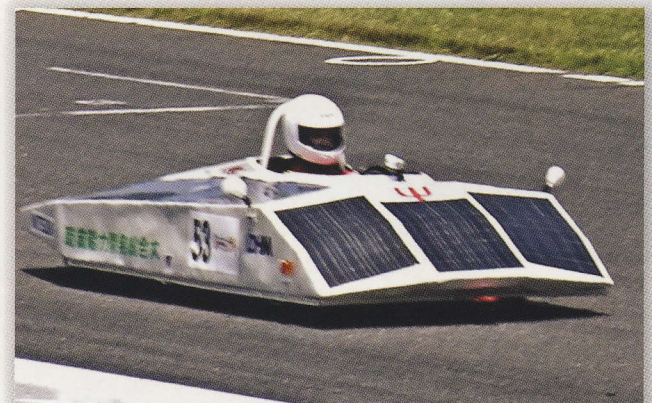
- 3) 前場恒太 電気・情報専攻1年 YPC（ヤングエンジニア・ポスター・コンペティション）優秀発表賞

（大会参加結果）

- 1) ソーラーカー同好会
Dream Cup ソーラーカーレース鈴鹿2006
4時間耐久レースENJOYクラス 8位
- 2) 水泳部（建築工学科4年荒牧勝鷹）
第53回全国国立大学選手権水泳競技大会
男子100mバタフライ 予選30位
男子200mバタフライ 予選24位
- 3) サイクリング部（生産機械工学科4年遠藤慧）
2006アミノバリューチームケンズカップトライアスロンin昭和記念公園大会 総合13位



駅伝大会のスタート



ソーラーカー

2007年ユニバーサル技能五輪国際大会開催

「第39回技能五輪国際大会」と「第7回国際アビリンピック」が2007年11月に静岡県で「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」として同時開催されます。両大会の日本開催は、技能五輪国際大会が1985年に大阪で、国際アビリンピックは1981年に東京で開催されて以来です。しかも両大会の同時開催は史上初めてになります。

今大会の特徴の一つは、国内大会を勝ち抜いた日本選手をはじめとして世界約60カ国・地域からトップクラスの技能者が集まり、金メダルを目指して技能を競うところにあります。「第39回技能五輪国際大会」では、40余りの競技に選手・審査員等を含めて約2,500名が参加予定です。また、「第7回国際アビリンピック」には、約1,000名の選手・審査員・介添者等が参加し、30余りの競技種目で技を競う予定です。

さらに、「技能五輪国際大会」、「国際アビリンピック」の同時開催によって、障害の有無に関わりなく「ものをつくりだす人と技」のすばらしさを伝えることで、誰もが社会に参画し、支え合い、責任を分かち合える「ユニバーサル社会」の実現を目指していることも大きな特徴です。

是非ご注目していただきたいと思います。

日程、大会情報、問い合わせ先等は以下のとおりです。

[日 程]

・開会式

2007年11月14日（水）

「第39回技能五輪国際大会」

「第7回国際アビリンピック」の合同開催

・競技日程

第39回技能五輪国際大会：11月15日～18日



2005年ヘルシンキ大会 表彰式の風景

第7回国際アビリンピック：11月15日～17日

[大会情報]

ものづくり情報ネット

(<http://www.mono.skillsfestival2007.or.jp/>)

[大会に関する問合せ先]

(財) 2007年ユニバーサル技能五輪国際大会

日本組織委員会 広報課

〒112-8503 東京都文京区小石川1-4-1

住友不動産後楽園ビル

TEL：03-3815-5169

FAX：03-3815-5176



2005年ヘルシンキ大会 日本選手団

事務局だより

●終身会費納入のお願い

滄水会の活動は、卒業時に徴収される終身会費と維持寄付で運営されています。事務局では経費削減に努めておりますが、会員数の増加に伴う通信連絡費・印刷費などの増加から、会をスムーズに運営していくことが困難な状況となっております。

卒業生の皆さまには、同窓会会則により滄水会会員の資格

として『終身会費 10,000円』を納入していただく規定になっており、ご協力をいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただけていない方には、滄水会ニュースと共に終身会費払込取扱用紙を同封しました。何卒、滄水会維持発展のため、会費納入にご協力くださいますよう切にお願い申し上げます。

●維持寄付のお願い

滄水会では、会員資格20年ごとに滄水会維持発展のために維持寄付をお願いしております。20年目の節目に、是非とも滄水会を盛り上げていただきたく、ご寄付を賜りたくお願い申し上げます。前回は1985年(第21回)卒業までの会員の内の37名の方から、加えて一団体からもご寄付を賜りました。今回の維持寄付依頼対象者は「1986年(第22回)卒業までの会員」となっております。該当いたします会員の皆さまには払込取扱用紙を同封いたしましたので、次の要領で払い込みくださいますよう切にお願い申し上げます。

維持寄付金：一口 5,000円

(できるだけ2口以上でお願い申し上げます)

払込み方法：同封の払込取扱用紙をご利用の上、最寄りの郵便局から払込み下さい。

ご注意：「会費未納の方」で、かつ「維持寄付依頼対象者」の方には、2枚の払込取扱用紙が同封されております。何卒、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

お願い：「滄水会会員調査票」に必要事項を記入の上、必ずご返送ください。

維持寄付された会員の皆様 (平成18年8月現在)

木材加工科同窓会

安部 昭二 (運輸13)	原田 正幸 (板溶1)
矢口 仁史 (機械19)	森部 正昭 (機械21)
澤 拓雄 (塗装5)	飯塚 真次 (機械18)
杉本 勝 (鋳鍛1)	伊藤 英敏 (電子17)
中田 文雄 (鋳造5)	流合 博幸 (運輸2)
堤 末彦 (機械11)	勅使 真弓 (建築20)
蔵本 一峰 (電気20)	山木戸 豪 (機械17)
迎 義夫 (運輸3)	蜂巣 益夫 (二電3)
小島 丑三 (運輸20)	尾藤 俊和 (運輸1)
八木沢敏夫 (板金8)	尾松 正道 (塗装21)
内田 久雄 (建築8)	野村安昭治 (電気20)
鎌谷 正士 (建築9)	紀 高志 (運輸20)
澤田 健 (電子13)	福村 英俊 (塗装3)
倉元 豊 (板溶1)	林 文男 (建築21)
久米田宜芳 (機械21)	藤岡 幹生 (二電11)
持木 弘之 (電気12)	宅島 則彦 (電気20)
吉村 敏広 (二電2)	大西 正家 (建築20)
古内 忍 (電子19)	村木 明良 (電気12)
川本 修司 (鋳鍛1)	(順不同、敬称省略)

《編集後記》「滄水会ニュース第19号」を会員の皆様にお届けします。高度ポリテクセンター日下所長および㈱コーヤシステムデザイン松野氏には原稿依頼を快く引き受けていただき感謝いたします。「ものづくり」の多様な局面を考えさせられる内容で、今後の能力開発や起業について参考になるものでした。また、「若年者ものづくり競技大会」や「2007年ユニバーサル技能五輪国際大会」など、能力開発と密接な関わりを持つビッグイベントについても紹介させていただきました。さらに、現役の後輩たちの頑張りを一部でもお伝えできたらと思い「在校生の活動状況」も取り上げました。紙面の都合で十分な情報提供ができなかったところもありますが、総合大の現在を知っていただく資料になればと思います。

発行日：2007/01/01 発行者：滄水会会長 小部 博志 編集委員：山下陽一郎、磯野宏秋、池田知純、川上善嗣、福岡克弘、菊池 真、澤 武一

滄水会ニュース 第19号

〒229-1196 神奈川県相模原市橋本台4-1-1
職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局
FAX 042-763-9267
E-mail sousuikai@uitek.ac.jp